

近畿厚生局長 殿

地方独立行政法人大阪府立病院機構  
理事長 遠山 正彌 印

大阪府立成人病センターの業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成24年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	45人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	115人	69人	164.2人	看護補助者	39人	診療エックス線技師	人
歯科医師	人	2人	1.1人	理学療法士	5人	臨床検査技師	63人
薬剤師	24人	7人	28.5人	作業療法士	1人	臨床衛生検査技師	2人
保健師	1人	人	1.0人	視能訓練士	人	その他	人
助産師	人	人	人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧	人
看護師	458人	33人	479.0人	臨床工学技士	4人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	2人	7人	6.9人	栄養士	人	その他の技術員	3人
歯科衛生士	人	1人	人	歯科技工士	人	事務職員	155人
管理栄養士	2人	2人	3.4人	診療放射線技師	39人	その他の職員	100人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	445.7人	人	445.7人
1日当たり平均外来患者数	1,019.7人	人	1,019.7人
1日当たり平均調剤数	入院 692.3 剤	外来 84.00 剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者数延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。





(様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病		・膿疱性乾癬	
・多発性硬化症	4人	・広範脊柱管狭窄症	3人
・重症筋無力症	10人	・原発性胆汁性肝硬変	16人
・全身性エリテマトーデス		・重症急性膵炎	1人
・スモン		・特発性大腿骨頭壊死症	
・再生不良性貧血	25人	・混合性結合組織病	1人
・サルコイドーシス	2人	・原発性免疫不全症候群	
・筋萎縮性側索硬化症		・特発性間質性肺炎	
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	1人	・網膜色素変性症	2人
・特発性血小板減少性紫斑病	27人	・プリオン病	
・結節性動脈周囲炎		・肺動脈性肺高血圧症	
・潰瘍性大腸炎	15人	・神経線維腫症	1人
・大動脈炎症候群	4人	・亜急性硬化性全脳炎	
・ビュルガー病	14人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	
・天疱瘡		・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1人
・脊髄小脳変性症	12人	・ライソゾーム病	
・クローン病		・副腎白質ジストロフィー	
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎		・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
・悪性関節リウマチ		・脊髄性筋萎縮症	
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	16人	・球脊髄性筋萎縮症	
・アミロイドーシス	3人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	
・後縦靭帯骨化症	9人	・肥大型心筋症	27人
・ハンチントン病		・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	2人	・ミトコンドリア病	
・ウェゲナー肉芽腫症		・リンパ管筋腫症(LAM)	
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	36人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	1人	・黄色靭帯骨化症	
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)		・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	1人

16

181人

10

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

26

54人  
235人



高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
遺伝子発現プロファイルによる神経膠腫悪性度診断法の多施設検証試験	加藤 菊也	研究所免疫学部門	6,548	補委 厚生労働省
疾患関連創薬バイオマーカー探索研究	加藤 菊也	研究所免疫学部門	5,000	補委 厚生労働省
地域がん専門診療施設のソフト面の評価と公表に関する研究	淡田 修久	副院長	500	補委 厚生労働省
がん専門医療施設における臨床教育体制の整備とその評価法の開発に関する研究	西山 謹司	副院長	660	補委 厚生労働省
未分化型早期胃癌に対する内視鏡切除の有効性及び安全性に関する多施設共同研究	飯石 浩康	診療局長	300	補委 厚生労働省
食道がん化学放射線療法後局所遺残再発例に対するタラポルフィリンナトリウム(レザフィリン)及び半導体レーザー(PDレーザー)を用いた光線力学療法の多施設第Ⅰ/Ⅱ相試験	飯石 浩康	診療局長	1,000	補委 厚生労働省
末梢小型非小細胞肺癌に対する縮小手術の有用性を検証する研究	東山 聖彦	診療局長	700	補委 厚生労働省
レーザー消化管内視鏡治療装置の開発	上堂 文也	消化管内科	500	補委 厚生労働省
切除不能胆道がんに対する治療法の確立に関する研究	片山 和宏	肝胆膵内科	400	補委 厚生労働省
慢性ウイルス性肝疾患の非侵襲的線維化評価法の開発と臨床的有用性の確立	大川 和良	肝胆膵内科	800	補委 厚生労働省
進行肺癌に対する化学療法	今村 文生	呼吸器内科	500	補委 厚生労働省
限局型小細胞肺癌に対する新たな標準的治療の確立に関する研究	今村 文生	呼吸器内科	200	補委 厚生労働省
再発小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究	今村 文生	呼吸器内科	700	補委 厚生労働省
治癒切除後の再発リスクが高い進行胃癌(スキルス胃癌など)に対する標準的治療の確立に関する研究	藤原 義之	消化器外科	700	補委 厚生労働省
大腸がんに対する外科的診療手技の標準化を目指した合意形成のための研究	能浦 真吾	消化器外科	660	補委 厚生労働省
肛門扁平上皮癌に対する新規化学放射線治療の確立	能浦 真吾	消化器外科	1,500	補委 厚生労働省
化学療法後センチネルリンパ節生検の病理学的検索方法の検討	元村 和由	乳腺・内分泌外科	500	補委 厚生労働省
臨床研究・検体の収集管理	丸野 元彦	脳神経外科	300	補委 厚生労働省

小計  
18

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
骨転移の標準的治療指針の確立と稀少軟部肉腫治療法の開発	荒木 信人	整形外科	600	補委 厚生労働省
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	荒木 信人	整形外科	130	補委 厚生労働省
進行卵巣癌・卵管癌・腹膜癌に対する腹腔内化学療法確立のための研究	上浦 祥司	婦人科	300	補委 厚生労働省
高悪性度筋層非浸潤癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除後の治療方針の確立に関する研究	西村 和郎	泌尿器科	130	補委 厚生労働省
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	西村 和郎	泌尿器科	400	補委 厚生労働省
頭頸部外科領域における手術手技の開発と標準化	藤井 隆	耳鼻咽喉科	500	補委 厚生労働省
N0 口腔癌における選択的頸部郭清術とセンチネルリンパ節ナビゲーション手術の無行為化比較試験	鈴木 基之	耳鼻咽喉科	600	補委 厚生労働省
がん統計情報の整備に関する研究	津熊 秀明	がん予防情報センター長	300	補委 厚生労働省
既存統計資料に基づくがん対策進捗の評価手法に関する実証的研究	津熊 秀明	がん予防情報センター長	10,800	補委 厚生労働省
院内がん登録の標準化と普及に関する研究	津熊 秀明	がん予防情報センター長	400	補委 厚生労働省
印刷労働者にみられる胆管癌発症の疫学的解明と原因追究	津熊 秀明	がん予防情報センター長	1,300	補委 厚生労働省
利用者側から見た適切ながん登録(がん対策)情報提供方法の開発に関する研究	井岡 亜希子	がん予防情報センター	300	補委 厚生労働省
小児がんの罹患数把握および晩期合併症・二次がんの実態把握のための長期フォローアップセンター構築に関する研究	井岡 亜希子	がん予防情報センター	400	補委 厚生労働省
がんの実態把握とがん情報の発信に関する研究	井岡 亜希子	がん予防情報センター	800	補委 厚生労働省
低線量らせんCTを用いた革新的な肺がん検診手法の確立に関する研究	中山 富雄	がん予防情報センター	10,500	補委 厚生労働省
発がんリスクの低減に資する効果的な禁煙推進のための環境整備と支援方策の開発ならびに普及のための制度化に関する研究	中山 富雄	がん予防情報センター	1,500	補委 厚生労働省
胃癌患者末梢血中の癌細胞由来浮遊DNA検出法の確立	加藤 菊也	研究所免疫学部門	100	補委 文部科学省
解糖系をターゲットにした抗がん免疫増強療法の開発	井上 徳光	研究所分子遺伝学部門	1,600	補委 文部科学省
トル様容体2リガンドの人工設計とアジュバントへの応用	赤澤 隆	研究所分子遺伝学部門	1,500	補委 文部科学省
サイトカイン遺伝子の導入による癌微小環境の改変がもたらす免疫療法増強効果の検討	赤澤 隆	研究所分子遺伝学部門	70	補委 文部科学省

小計  
19

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
新しい初代癌細胞培養法を用いた、癌における破壊・再生連鎖の解析	井上 正宏	研究所 生化学部門	6,600	補 委 文部科学省
新しい初代癌細胞3次元培養法を用いた低酸素によるDormancy誘導機構の解明	奥山 裕照	研究所 生化学部門	1,300	補 委 文部科学省
新しい癌細胞初代培養系(CTOS法)を用いた放射線感受性試験の確立	遠藤 洋子	研究所 生化学部門	1,200	補 委 文部科学省
がん発症と進行におけるアフィディンの役割	岡本 三紀	研究所 分子生物学部門	600	補 委 文部科学省
骨軟部腫瘍幹細胞を標的とした新規治療法の開発	伊藤 和幸	研究所 生物学部門	4,600	補 委 文部科学省
肺転移に対する骨髄の関与を検討する新規実験系の開発	伊藤 和幸	研究所 生物学部門	1,300	補 委 文部科学省
腫瘍細胞の幹細胞性と転移能の分子メカニズムの解析	笹川 覚	研究所 生物学部門	1,300	補 委 文部科学省
肺微小環境下におけるSSXの役割	吉岡 潔子	研究所 生物学部門	1,200	補 委 文部科学省
日本人ハプロイドゲノムの超並列シーケンス解析による構造多型の完全解明	久木田 洋児	研究所 免疫学部門	200	補 委 文部科学省
新規癌特異的糖鎖抗原の腫瘍マーカーとしての応用口腔・咽頭がんに対する標準的な診断・治療法に関する研究	宮本 泰豪	研究所 免疫学部門	1,500	補 委 文部科学省
生物医薬品としての肉腫標的化腫瘍容解性ウイルスの開発	山村 倫子	研究所 病態生理学部門	1,500	補 委 文部科学省
生存時間解析における樹木構造接近法によるがん患者の予後予測モデルの検討	伊藤 ゆり	がん予防情報センター	1,400	補 委 文部科学省
地理的剥奪指標に基づく近隣健康格差の分析	伊藤 ゆり	がん予防情報センター	1,000	補 委 文部科学省
細胞内シグナル伝達とNon-coding RNAによる肝再生制御機構の解明	丸橋 繁	消化器外科	1,600	補 委 文部科学省
膵臓癌に対する術前化学放射線治療の感受性予測法構築におけるMicroRNAの関与	丸橋 繁	消化器外科	100	補 委 文部科学省
胆道炎症によるIL-6/TGF- $\beta$ クロストークから癌と周囲環境に与える変化	丸橋 繁	消化器外科	100	補 委 文部科学省
オスナ法によるセンチネルリンパ節微小転移の臨床的意義と術前化学療法への応用	玉木 康博	乳腺・内分泌外科	1,500	補 委 文部科学省
$^{11}\text{C}$ -MET-PETによる悪性神経膠腫の治療効果判定法についての検討	沖田 典子	脳神経外科	1,700	補 委 文部科学省
骨肉腫治療標的分子の探索～ラット発癌モデルとマウス肺転移モデルによる解析～	橋本 伸之	整形外科	1,200	補 委 文部科学省

小計  
19

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
スフェロイドによる新規初代培養系を用いた薬剤感受性試験の膀胱癌治療への臨床応用	中山 雅志	泌尿器科	900	補 委 文部科学省
ガレクチン-3の発現とプロモーター領域メチル化の解析による甲状腺発癌機構の解明	喜井 正士	耳鼻咽喉科	1,300	補 委 文部科学省
放射線によるがん転移への影響	手島 昭樹	放射線治療科	4,300	補 委 文部科学省
早期の癌に対する標準的放射線治療方法確立と適応決定に関する研究	手島 昭樹	放射線治療科	250	補 委 文部科学省
リアルタイム体内線量測定に基づく高線量率組織内照射の高精度化	小西 浩司	放射線治療科	470	補 委 文部科学省
ミトコンドリアDループDNA/RNAの機能解析	富田 裕彦	病理・細胞診断科	1,400	補 委 文部科学省

小計  
6計  
62

- (注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Exp Metastasis, 30(4):369-379, 2012,	Dynamic analysis of lung metastasis by mouse osteosarcoma LM8;VEGF is a candidate for anti-metastasis therapy	Tanaka T.	生物学部門
Recent Res. Dev. Cell Biol. 4, 1-23, 2012	Mechanisms of acquired resistance to EGFR tyrosine kinase inhibitor gefitinib in NSCLC cell lines: Evidence for a role of SNX1 in the regulation of EGF-dependent phosphorylated EGFR endocytosis in a human lung cancer cells.	Yoshioka K	生物学部門
International Journal of Oncology, 41,1520-1530, 2012,	Silencing of SNX1 by siRNA stimulates the ligand-induced endocytosis of EGFR and increases EGFR phosphorylation in gefitinib-resistant human lung cancer cell lines	Yoshioka K	生物学部門
Scientific Reports. 2:494, 2012	Hypoxia inducible factor-1 $\alpha$ is necessary for invasive phenotype in Vegf-deleted islet cell tumors	Takeda T	病理学部門
J Thorac Oncol. 8(2):131-9, 2013	Spheroid culture of primary lung cancer cells with neuregulin 1/HER3 pathway activation	Nishizawa Y	病理学部門
Allergology International 61(4): 559-562, 2012	Guideline for Hereditary Angioedema (HAE) 2010 by the Japanese Association for Complement Research	Inoue N	分子遺伝子学部門
Exp Ther Med. 2(6):1053-1058,2011	Decreased expression of LMO7 and its clinicopathological significance in human lung adenocarcinoma	Tanaka-Okamoto M	分子生物学部門
J Cell Sci.124:2231-2240,2011	Involvement of afadin in barrier function and homeostasis of mouse intestinal epithelia.	Tanaka-Okamoto M	分子生物学部門
Oncogene. 31(17):2210-2221,2012	Key role of ATF3 in p53-dependent DR5 induction upon DNA damage of human colon cancer cells	Tanaka-Okamoto M	分子生物学部門
Circ Res. 110(5):716-726,2012	Necl-5/Poliovirus Receptor Interacts With VEGFR2 and Regulates VEGF-Induced Angiogenesis	Miyoshi J	分子生物学部門
Science. 333(6046):1144-1147,2011	Nectins Establish a Checkerboard-like Cellular Pattern in the Auditory Epithelium.	Miyoshi J	分子生物学部門
Genes Cells. 17(6):455-472,2012	Periderm cells covering palatal shelves have tight junctions and their quamation reduces the polarity of palatal shelf epithelial cells in palatogenesis.	Miyoshi J	分子生物学部門
J Clin Invest. 121(8):3233-3243,2011	Rac1 GTPase in rodent kidneys is essential for salt-sensitive hypertension via a mineralocorticoid receptor-dependent pathway.	Miyoshi J	分子生物学部門
J Biol Chem. 287(21):17493-17502,2012	Siglec-15 regulates the formation of functional osteoclasts in concert with DNAX-activating protein of 12 KDa (DAP12).	Miyoshi J	分子生物学部門
PLoS One. 6(10):e2684,2011.	Systems Analysis of ATF3 in Stress Response and Cancer Reveals Opposing Effects on Pro-Apoptotic Genes in p53 Pathway.	Tanaka-Okamoto M	分子生物学部門
Hum Genet. 131(2):235-250,2012	The cell adhesion gene PVRL3 is associated with congenital ocular defects.	Miyoshi J	分子生物学部門
J Proteome Res 2012, 11, (8), 4201-10.	Strategy for SRM-based Verification of Biomarker Candidates Discovered by iTRAQ Method in Limited Breast Cancer Tissue Samples.	Miyamoto Y	免疫学部門
Hepato-Gastroenterology 2012;59(118): Ahead of print	Diagnostic clues and subsequent examinations that detected small pancreatic cancer.	Kawada N	肝胆膵内科

小計

18

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Gastroenterol.2012;47:169-178.	Dynamics of regulatory T cells and plasmacytoid dendritic cells as immune markers for virological response in pegylated interferon- $\alpha$ and ribavirin therapy for chronic hepatitis C patients.	Sakakibara M	肝胆膵内科
Hepato-gastroenterology,59,219-223,2012,	Lipiodol accumulation and transarterial chemoembolization efficacy for HCC patients.	Ohkawa K	肝胆膵内科
Hepatol Res 2012;42:621-626.	Long-term effect of lamivudine treatment on the incidence of hepatocellular carcinoma in patients with hepatitis B virus infection.	Katayama K	肝胆膵内科
Case Rep Gastroenterol 2013;7:30-36.	Microinvasion of high-grade pancreatic intraepithelial neoplasia.	Kawada N	肝胆膵内科
別冊・医学のあゆみ肝硬変 Update－肝硬変死の根絶をめざして,69-74,2013.3.15, 医歯薬出版(株)	肝性脳症・高アンモニア血症に対する亜鉛補充療法	片山和宏	肝胆膵内科
日本消化器病学会雑誌 109:1895-1901, 2012.	肝内胆管癌に対する化学療法の進歩。	井岡達也	肝胆膵内科
特集II 肝硬変患者の栄養マネジメント。消化器内科55(6);818-823,2012.	慢性肝疾患の病態に及ぼす亜鉛の影響。	片山和宏	肝胆膵内科
臨床血液 2013 Jan 54 117-21	Alleviation of carotid sinus syncope and removal of cardiac pacing after regression of cervical malignant lymphoma	Ishikawa J	血液・化学療法科
Internal Medicine.51:769-772.2012.4.1Case report	Successful treatment of duodenal myeloid sarcoma with allogeneic bone marrow transplantation and additional radiotherapy.	Ishikawa J	血液・化学療法科
特集 胆膵癌の早期診断フロンティア 肝胆膵 66(2):299-306, 2013.	超音波検査を主体とした膵癌定期検診システム	井岡達也	検診部
International Journal of Radiation Oncology, Biology, Physics,vol.85no.1,163-168,2013,	A Multicenter Phase II Trial of S-1 with Concurrent Radiation Therapy for Locally Advanced Pancreatic Cancer	Ioka T	検診部
PLoS One,7(10),e-46908,2012,	Altered Plasma apolipoprotein modifications in patients with pancreatic cancer: protein characterization and multi-institutional validation.	Ioka T	検診部
Cancer Chemotherapy Pharmacology・Vol.69・p.1181-1188,2012	Phase I trial of oral S-1combined with gemcitabine and cisplatin for advanced biliary tract cancer(KHBO1002)	Ioka T	検診部
J Gastroenterol,2012.	Risk of peritoneal carcinomatosis by endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration for pancreatic cancer.	Ioka T	検診部
JJCO,e-pnb,2012,	Safety and Effectiveness of Gemcitabine in 855 Patients with Pancreatic Cancer under Japanese Clinical Practice based on Post-marketing Surveillance in Japan	Ioka T	検診部
Lung Cancer 78,212-218,2012	An accurate and rapid detection of lymph node metastasis in non-small cell lung cancer patients based on one-step nucleic acid amplification assay	Higsshayama M	呼吸器外科
J Thorac Dis,4,40-47,2012	Differences in chemosensitivity between primary and paired metastatic lung cancer tissues: In vitro analysis based on the collagen gel droplet embedded culture drug test (CD-DST)	Higashiyama M	呼吸器外科
Acta Radiol,54,164-8,2013	F18-FDG PET-CT analyses of small peripheral adenocarcinoma of the lung	Higashiyama M	呼吸器外科
J Thorac Oncol,8,131-9,2013	Spheroid Culture of Primary Lung Cancer Cells with Neuregulin 1/HER3 Pathway Activation	Okami J	呼吸器外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
The Journal of Biological Chemistry,288(4),2118-2131,2013,	Deletion of Tetraspanin CD9 Diminishes Lymphangiogenesis in Vivo and in Vitro	Kumagai T	呼吸器内科
Invest New Drugs. Mar 10. 2013	Pemetrexed and carboplatin followed by pemetrexed maintenance therapy in chemo-naïve patients with advanced nonsquamous non-small-cell lung cancer.	Imamura F	呼吸器内科
Cancer Chemother Pharmacol. 70(6):783-9, 2012.	Phase II tailored S-1 regimen study of first-line chemotherapy in elderly patients with advanced and recurrent non-small cell lung cancer.	Imamura F	呼吸器内科
BMC Res Notes 3;6:3, 2013.	Randomized Phase II trial of paclitaxel and carboplatin followed by gemcitabine switch-maintenance therapy versus gemcitabine and carboplatin followed by gemcitabine continuation-maintenance therapy in previously untreated advanced non-small cell lung cancer.	Imamura F	呼吸器内科
J Thorac Oncol 8(2):131-9, 2013.	Spheroid culture of primary lung cancer cells with neuregulin 1/HER3 pathway activation.	Imamura F	呼吸器内科
BMC Cancer 15;13:77, 2013.	The significance and robustness of a plasma free amino acid (PFAA) profile-based multiplex function for detecting lung cancer.	Imamura F	呼吸器内科
Int J Clin Oncol, 17(4):390-394, 2012.	A case of myxofibrosarcoma of the maxilla with difficulty in preoperative diagnosis.	Kurita T	耳鼻咽喉科
Endoscopy. 2013;45 Suppl 2 UCTN:E92.	A case of delayed perforation after intralesional triamcinolone injection for esophageal stricture after endoscopic submucosal dissection	Yamashina T	消化管内科
Dig Dis Sci 2012;57:2122-9	A Water-Jet Videoendoscope May Reduce Operation Time of Endoscopic Submucosal Dissection for Early Gastric Cancer	Uedo N	消化管内科
Dig Endosc. 2013 May;25:264-73.	Changes in Endoscopic Findings of Gastritis after Cure of H. pylori Infection: Multicenter Prospective Trial.	Uedo N	消化管内科
Head Neck. 2012 Sep 1. doi: 10.1002/hed.23106. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 22941930.	Clinical outcomes of endoscopic mucosal resection and endoscopic submucosal dissection as a transoral treatment for superficial pharyngeal cancer.	Hanaoka N	消化管内科
Dig Endosc. 2013 Apr 29.	Delayed perforation: A hazardous complication of endoscopic resection for non-ampullary duodenal neoplasm.	Uedo N	消化管内科
Dig Endosc. 2012 May;24 Suppl 1:121-3.	DESIRABLE TRAINING AND ROLES OF JAPANESE ENDOSCOPISTS TOWARDS THE FURTHER PENETRATION OF ENDOSCOPIC SUBMUCOSAL DISSECTION IN ASIA	Uedo N	消化管内科
Dig Endosc. 2013 Mar;25:136-46	ENDOSCOPIC DIAGNOSIS OF GASTRIC MUCOSAL ACTIVITY AND INFLAMMATION	Nomura S	消化管内科
Annals of Gastroenterology 2012;25:281-290	Endoscopic management of early gastric cancer: endoscopic mucosal resection or endoscopic submucosal dissection: data from a Japanese high-volume center and literature review	Uedo N	消化管内科
Lakartidningen. 2012 Nov 7-13;109(45):2019-23.	Endoscopic submucosal dissection in colorectal polyps. Promising minimally invasive technique that allows larger resections	Uedo N	消化管内科
Gastrointest Endosc. 2012 Jun;75(6):1159-65.	Factors predicting perforation during endoscopic submucosal dissection for gastric cancer.	Ishihara R	消化管内科
J Gastroenterol Hepatol. 2013 Feb;28(2):274-8.	Histological features responsible for brownish epithelium in squamous neoplasia of the esophagus by narrow band imaging.	Ishihara R	消化管内科
Dig Endosc. 2012 May;24 Suppl 1:136-42.	HOW TO TEACH AND LEARN ENDOSCOPIC SUBMUCOSAL DISSECTION FOR UPPER GASTROINTESTINAL NEOPLASM IN JAPAN	Uedo N	消化管内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
消化器内科. 431-436:55(4); 2012.	Image enhanced endoscopyを用いた食道癌のスクリーニング	石原立	消化管内科
Endoscopy;44(11):1007-11. 2012	Intralesional steroid injection to prevent stricture after endoscopic submucosal dissection for esophageal cancer : a controlled prospective study.	Hanaoka N	消化管内科
Dig Endosc. 2013;Suppl 2:41-5.	Locoregional and multiple distant metastases after chemoradiation therapy following endoscopic resection for rectal cancer with deep submucosal invasion.	Takeuchi Y	消化管内科
Am J Gastroenterol. 2013 Apr;108(4):544-51.	Long-term outcome and metastatic risk after endoscopic resection of superficial esophageal squamous cell carcinoma.	Ishihara R	消化管内科
World J Gastroenterol. In press	Pink-color sign in esophageal squamous neoplasia, and speculation regarding the underlying mechanism	Ishihara R	消化管内科
Int J Clin Oncol. 2012 Jun;17(3):225-32.	Predicting the effects of chemoradiotherapy for squamous cell carcinoma of the esophagus by induction chemotherapy response assessed by positron emission tomography: toward PET-response-guided selection of chemoradiotherapy or esophagectomy.	Ishihara R	消化管内科
Am J Gastroenterol. 2013 Jun 4.	Randomized Study of Two Endo-knives for Endoscopic Submucosal Dissection of Esophageal Cancer.	Ishihara R	消化管内科
Hepatogastroenterology. 2012 Jul-Aug;59(117):1446-9.	Risk factors of chest pain after endoscopic resection of early esophageal cancer.	Ishihara R	消化管内科
Dig Endosc.2012Jul;24(4):220-5.	SAFETY AND CURATIVE ABILITY OF ENDOSCOPIC SUBMUCOSAL DISSECTION FOR SUPERFICIAL ESOPHAGEAL CANCERS AT LEAST 50 MM IN DIAMETER	Ishihara R	消化管内科
Gastroenterol Clin N Am 2013;42:317-335	Screening and treating intermediate lesions to prevent gastric cancer	Uedo N	消化管内科
Dig Endosc. 2013;25:86-7	Solitary Peutz-Jeghers polyp mimicking invasive cancer	Uedo N	消化管内科
Dig Endosc. 2012 May;24 Suppl 1:133-5.	TERMINOLOGY FOR TRAINING OF ENDOSCOPIC SUBMUCOSAL DISSECTION	Uedo N	消化管内科
Korean J Helicobacter Up Gastrointest Res 2013;13:6-19	What Have We Accomplished in Endoscopic Image Analysis for Atrophic Gastritis?	Uedo N	消化管内科
Gastroenterology.6:375-380.2012	A Case of KIT-Negative Extra-Gastrointestinal Stromal Tumor of the Lesser Omentum	Gotoh K	消化器外科
Oncol Rep,27(4),940-946,2012,	Assessment of stanniocalcin-1 as a prognostic marker in human esophageal squamous cell carcinoma.	Fujiwara Y	消化器外科
J Surg Oncol 106(2): 144-148,2012.	Brain Metastasis From Colorectal Cancer:Prognostic Factors and Survival.	Ohue M.	消化器外科
胆道,26(1),31-39,2012,	Cancer Stem Cell	Marubashi S	消化器外科
Horizons in Cancer Reserch,2012,June,197-219	Classification of Pancreatic Cancer:Validation using nationwide registry of Japan Pancreas Society	Ohigashi H	消化器外科
J Surg Oncol,10(4),441-447,2012,	Clinical relevance of induction triplet chemotherapy for esophageal cancer invading adjacent organs.	Fujiwara Y	消化器外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ann Surg Oncol.19:2135-2141.2012	Comparison Between Radical Esophagectomy and Definitive Chemoradiotherapy in Patients with Clinical T1bN0M0 Esophageal Cancer.	Motoori M	消化器外科
Ann Surg Oncol,19(5),1560-1567,2012,	DOK2 as a marker of poor prognosis of patients with gastric adenocarcinoma after curative resection.	Fujiwara Y	消化器外科
MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY,41280,2013,	Early response to neoadjuvant chemotherapy in advanced esophageal cancer evaluated by computed tomography predicts the utility of a second cycle of chemotherapy	Motoori M.	消化器外科
Cancer,118(19),4785-4794,2012,	Effects of ghrelin administration during chemotherapy with advanced esophageal cancer patients: A prospective, randomized, placebo-controlled phase 2 study.	Fujiwara Y	消化器外科
World J Surg,online 02 October 2012	Evaluation of Dysphagia and Diminished Airway Protection after Three-Field Esophagectomy and a Remedy	Fujiwara Y	消化器外科
Int J Clin Oncol,17(4),316-323,2012,	Fall in plasma ghrelin concentrations after cisplatin-based chemotherapy in esophageal cancer patients.	Fujiwara Y	消化器外科
Gastric Cancer,16(1),1-27,2013,	Gastric cancer treated in 2002 in Japan: 2009 annual report of the JGCA nationwide registry	Miyashiro I	消化器外科
Br J Cancer,10(8),1415-1423,2012,	High expression of Lin28 is associated with tumour aggressiveness and poor prognosis of patients in oesophagus cancer.	Fujiwara Y	消化器外科
Gastroenterology.6:171-176.2012	Idiopathic Adrenal Hematoma Masquerading as Neoplasm	Gotoh K	消化器外科
Surgery,152(5): 832-842,2012,	Impact of perioperative administration of synbiotics with esophageal cancer undergoing esophagectomy: a prospective randomized controlled trial.	Yano M.	消化器外科
World J Surg, 37(2): 430-436, 2013.	Is Preservation of the Remnant Stomach Safe During Distal Pancreatectomy in Patients Who Have Undergone Distal Gastrectomy?	Takahashi H.	消化器外科
Pancreas,41(7),985-992,2012,	Japan Pancreatic Cancer Registry; 30th year anniversary: Japan Pancreas Society.	Ohigashi H	消化器外科
W J Surg 36: 632-637, 2012.	Morbidity and mortality results from a prospective randomized controlled trial comparing Billroth I and Roux-en-Y reconstructive procedures after distal gastrectomy for gastric cancer.	Fujiwara Y	消化器外科
Case Rep Gastroenterol,6(2),518-522,2012,	Multimodal treatment of hepatic metastasis in the form of a bile duct tumor thrombus from pancreatic acinar cell carcinoma: case report of successful resection after chemoradiation therapy.	Takahashi H	消化器外科
J Surg Oncol,105(8),780-785,2012,	Oncofetal protein, IMP-3, a potential marker for prediction of postoperative peritoneal dissemination in gastric adenocarcinoma.	Fujiwara Y	消化器外科
Ann Surg Oncol,online02October 2012,2012,	Overexpression of Forkhead Box M1 Transcription Factor(FOXM1)is a Potential Prognostic Marker and Enhances Chemoresistance for Docetaxel in Gastric Cancer	Fujiwara Y	消化器外科
Br J Cancer.10(5):947-954.2012	Overexpression of PFTK1 predicts resistance to chemotherapy in patients with oesophageal squamous cell carcinoma.	Fujiwara Y	消化器外科
J Hepatobiliary Pancreat Sci.19(2):100-108.2012	Pancreaticoduodenectomy for invasive pancreatic cancer(with video)	Takahashi H	消化器外科
Ann Surg.25(1):95-102.2012	Perineural invasion and lymph node involvement as indicators of surgical outcome and pattern of recurrence in the setting of preoperative gemcitabine-based chemoradiation therapy for resectable pancreatic cancer.	Takahashi H	消化器外科

小計

19

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Onvol, 41(4): 1297-1304, 2012,	Phase I / II study of S-1 plus cisplatin combined with peptide vaccines for human vascular endothelial growth factor receptor 1 and 2 in patients with advanced gastric cancer.	Fujiwara Y	消化器外科
Lancet Oncol,13,616-621,2012,	Postoperative morbidity and mortality after mesorectal excision with and without lateral Lymph node dissection for clinical stage II or stage III lower rectal cancer (JCOG0212): results from a multicentre, randomised controlled, non-inferiority trial	Ohue M.	消化器外科
Esophagus,9,210-216,2012,	Preoperative staging of clinically node-negative esophageal cancer by the combination of 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography and computed tomography(PET/CT)	Yano M.	消化器外科
Diseases of the Esophagus 25: 181-187,2012.	Prevention of gastroduodenal content reflux and delayed gastric emptying after esophagectomy: gastric tube reconstruction with duodenal diversion plus Roux-en-Y anastomosis	Yano M.	消化器外科
Br J Surg, 99(5): 621-629, 2012.	Prospective randomized trial of preoperative enteral immunonutrition followed by elective total gastrectomy for gastric cancer.	Miyashiro I	消化器外科
Clin Nutr.31(3):330-336.2012	Randomized study of clinical effect of enteral nutrition support during neoadjuvant chemotherapy on chemotherapy-related toxicity in patients with esophageal cancer.	Yano M.	消化器外科
World J Surg,36(4),851-857,2012,	Recent trend of internal hernia occurrence after gastrectomy for gastric cancer.	Fujiwara Y	消化器外科
Surgery Today ,43(1): 48-54, 2013.	Reduced plasma ghrelin levels on day 1 after esophagectomy: a new predictor of prolonged systemic inflammatory response syndrome.	Fujiwara Y	消化器外科
Oncology,83,91-100,2012,	Relationship between immunological parameters and the severity of neutropenia and effect of enteral nutrition on immune status during neoadjuvant chemotherapy on patients with advanced esophageal cancer.	Motoori M.	消化器外科
World J Surg. 37(1): 169-178, 2013.	Role of 18F-Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography/Computed Tomography in Predicting the Pathologic Response to Preoperative Chemoradiation Therapy in Patients with Resectable T3 Pancreatic Cancer.	Takahashi H	消化器外科
Surg Laparosc Endosc Percutan Tech.,22(3),118-121,2012,	Single-port laparoscopic surgery of the distal esophagus: initial clinical experience.	Fujiwara Y	消化器外科
Journal of Surgical Oncology.10:294-298.2012	Staging laparoscopy using ALA-mediated photodynamic diagnosis improves the detection of peritoneal metastases in advanced gastric cancer	Kishi K	消化器外科
J Surg Oncol.10(1):107-110.2012	Subtotal gastrectomy for gastric tube cancer after esophagectomy : A safe procedure preserving the proximal part of gastric tube based on intraoperative ICG blood flow evaluation.	Yano M.	消化器外科
Gastric Cancer,2012,vol15,42-48	Survival benefit of bursectomy in patients with resectable gastric cancer: interim analysis results of a randomized controlled trial.	Fujiwara Y	消化器外科
Dis Esophagus.,25(8),687-693,2012,	Ten cases of gastro-tracheobronchial fistula: a serious complication after esophagectomy and reconstruction using posterior mediastinal gastric tube.	Yano M.	消化器外科
Hepatogastroenterology,59(11),1800-1803,2012,	The features of late local recurrences following curative surgery for rectal cancer.	Yano M.	消化器外科
Dis Esophagus.25(2):146-152, 2012.	The significance of abdominal para-aortic lymph node metastasis in patients with lower thoracic esophageal cancer	Yano M.	消化器外科
J Gastric Cancer Vol.12,No.1,P7~12,2012	What is the problem in clinical application of sentinel node concept to gastric cancer surgery?	Miyashiro I.	消化器外科
NATURE GENETICS,44(7),760-764,2012,	Whole-genome sequencing of liver cancers identifies etiological influences on mutation patterns and recurrent mutations in chromatin regulators	Takahashi H	消化器外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eur J Orthop Surg Traumatol. 2013 Apr;23(3):357-60.	A new strategy to remove broken femoral mega-prostheses with hollow trephine reamers	Hamada K	整形外科
Clin Orthop Relat Res. 2013 Mar;471(3):741-9	Constrained Total Hip Megaprosthesis for Primary Periacetabular Tumors.	Araki N	整形外科
Lancet. 2012 May 19;379(9829):1879-86	Pazopanib for metastatic soft-tissue sarcoma (PALETTE): a randomised, double-blind, placebo-controlled phase 3 trial.	Araki N	整形外科
Ann Vasc Surg.5(26)p693-699	Surgery with vascular reconstruction for soft-tissue sarcomas in the inguinal region: oncologic and functional outcomes.	Hamada K	整形外科
Oncol Lett. 2012 Feb;3(2):293-296.	Variation in myxoid liposarcoma: Clinicopathological examination of four cases with detectable TLS-CHOP or EWS-CHOP fusion transcripts whose histopathological diagnosis was other than myxoid liposarcoma.	Hashimoto N	整形外科
Cell Death Dis. 3 : e322, 2012	Acute hypoxia induces apoptosis of pancreatic beta-cell by activation of the unfolded protein response and upregulation of CHOP	Inoue M	生化学部門
Nat Commun. 3 : 783, 2012	Cancer cells that survive radiation therapy acquire HIF-1 activity and translocate towards tumour blood vessels	Inoue M	生化学部門
Sci Rep. 2 : 494, 2012	Hypoxia inducible factor-1alpha is necessary for invasive phenotype in Vegf-deleted islet cell tumors	Takeda T	生化学部門
Pain Res Treat. 2012;2012:964652. doi: 10.1155/2012/964652. Epub 2012	Astroglial integrins in the development and regulation of neurovascular units.	Tanigami H	中央手術科
J Anesth ISSN 0913-8668 / DOI/ 10.1007/s00540-012-1361-2 Published online: 10 March 2012	Oral gastric tube-guided insertion of the ProSeal™ laryngeal mask is an easy and noninvasive method for less experienced users	Nagata T	中央手術科
Critical Care Research and Practice, vol. 2012	Thrombomodulin: A Bifunctional Modulator of Inflammation and Coagulation in Sepsis.	Tanigami H	中央手術科
日臨床会誌 Vol.33 No.1, 142~147, 2013	病院内に発生しうる患者に起因しない緊急事態 突然の停電に遭遇して	安江雄一	中央手術科
Breast Cancer Research and Treatment July 2012, Volume 134, Issue 1, pp 229-236	14-3-3 $\sigma$ expression is associated with poor pathological complete response to adjuvant chemotherapy in human breast cancers.	Nakayama T	乳腺・内分泌外科
2012 Jan 28;314(2):206-12. Epub 2011 Oct 1.	70-Gene classifier for differentiation between paclitaxel- and docetaxel-sensitive breast cancers.	Nakayama T	乳腺・内分泌外科
Ann Oncol 23(12):3051-7, 2012	Clinicopathological analysis of GATA3-positive breast cancer with special reference to response to neoadjuvant chemotherapy.	Tamaki Y	乳腺・内分泌外科
2012 Feb;132(1):165-73.	Detection of aberrant promoter methylation of GSTP1, RASSF1A, and RAR $\beta$ 2 in serum DNA of patients with breast cancer by a newly established one-step methylation-specific PCR assay.	Nakayama T	乳腺・内分泌外科
2012 Nov 1;324(1):42-7	Estrogen receptor positive breast cancer identified by 95-gene classifier as at high risk for relapse shows better response to neoadjuvant chemotherapy.	Nakayama T	乳腺・内分泌外科
Cancer sci 103(5):913-20, 2012	GSTP1 expression predicts poor pathological complete response to neoadjuvant chemotherapy in ER-negative breast cancer.	Nakayama T	乳腺・内分泌外科
2012;83(5):273-82	Methylated DNA and total DNA in serum detected by one-step methylation-specific PCR is predictive of poor prognosis for breast cancer patients.	Nakayama T	乳腺・内分泌外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Breast Cancer 2012 Epub ahead of print	One-step nucleic acid amplification assay (OSNA) for sentinel lymph node biopsy.	Tamaki Y	乳腺・内分泌外科
2012 Sep;103(9):1708-13	Randomized phase II study of three doses of oral TAS-108 in postmenopausal patients with metastatic breast cancer.	Nakayama T	乳腺・内分泌外科
Ann Oncol 23(4):891-7, 2012	Recurrence risk score based on the specific activity of CDK1 and CDK2 predicts response to neoadjuvant paclitaxel followed by 5-fluorouracil, epirubicin and cyclophosphamide in breast cancers.	Nakayama T	乳腺・内分泌外科
Japanese Journal of Breast Cancer 2012; Vol.27 No. 2: 5-13	Report of the advanced breast cancer first consensus conference (ABC 1).	Nakayama T	乳腺・内分泌外科
Cancer 118(14):3477-83, 2012	Routine clinical use of the one-step nucleic acid amplification assay for detection of sentinel lymph node metastases in breast cancer patients: results of a multicenter study in Japan.	Tamaki Y	乳腺・内分泌外科
Breast Cancer, 2012 Dec 19. [Epub ahead of print]	Sentinel node biopsy for breast cancer: past, present, and future.	Motomura K	乳腺・内分泌外科
2012; Vol.8 No.1: 3-8	術後補助化学療法 乳がん 術後補助療法が適応となる症例と期待される効果	中山貴寛	乳腺・内分泌外科
日本臨牀. 70(7):498-501, 2012	早期乳癌の内視鏡手術	玉木康博	乳腺・内分泌外科
LiSA(1340-8836)19巻3号 Page270-272(2012.03)	【癌治療と麻酔】多発転移への骨接合術	荒木信人	整形外科
Neuropathology. 2012 Dec;32(6):604-10.	A case of unclassified high-grade glioma with polar spongioblastoma pattern.	Okita Y	脳神経外科
Asia Pac J Clin Oncol. 2012 Dec;8(4):e49-52.	Development of secondary skull sarcoma after treatment for childhood acute myeloid leukemia.	Okita Y	脳神経外科
Molecular and Clinical Oncology, in press.	Extended trastuzumab therapy improves the survival of HER-2-positive breast cancer patients after surgery and radiotherapy for brain metastases.	Okita Y	脳神経外科
Brain Tumor Pathol. 2012 Oct;29(4):183-91.	Histopathological malignant progression of grade II and III gliomas correlated with IDH1/2 mutation status.	Okita Y	脳神経外科
Int J Oncol. inpress.	IDH1/2 mutation is a prognostic marker for survival and predicts response to chemotherapy for grade II gliomas concomitantly treated with radiation therapy.	Okita Y	脳神経外科
Clin Neurol Neurosurg. 2012 Nov;114(9):1217-21.	Long-term follow-up of vanishing tumors in the brain: how should a lesion mimicking primary CNS lymphoma be managed?	Okita Y	脳神経外科
Intern Med. 2012;51(20):2967-71	Management of cytomegalovirus infection in a patient with malignant glioma treated with temozolomide and steroids.	Okita Y	脳神経外科
Childs Nerv Syst. 2013 Feb;29(2):341-5.	Management of glioblastoma in an NF1 patient with moyamoya syndrome: a case report.	Okita Y	脳神経外科
Brain Tumor Pathol. 2012 Oct;29(4):192-200.	Pathological findings and prognostic factors in recurrent glioblastomas.	Okita Y	脳神経外科
Pediatr Hematol Oncol. 2012 Oct;29(7):647-51.	The late recurrence of ganglioneuroma 21 years after initial presentation with neuroblastoma.	Okita Y	脳神経外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Oncol Lett.2012 Jul;4(1):15-21.	Co-expression of ERCC1 and Snail is a prognostic but not predictive factor of cisplatin-based neoadjuvant chemotherapy for bladder cancer.	Nishimura K	泌尿器科
Int J Clin Oncol. 2012 Jul 21.	Genetic polymorphisms of CYP17A1 in steroidogenesis pathway are associated with risk of progression to castration-resistant prostate cancer in Japanese men receiving androgen deprivation therapy.	Nakayama T	泌尿器科
Int J Urol. 2012 Dec;19(12):1050-7; author reply 1058-9.	Impact of hyponatremia on survival of patients with metastatic renal cell carcinoma treated with molecular targeted therapy.	Arai Y	泌尿器科
Med Oncol. 2012 Dec;29(5):3298-305.	Importance of continuing therapy and maintaining one-month relative dose intensity in sunitinib therapy for metastatic renal cell carcinoma.	Nishimura K	泌尿器科
J Urol.2013 Jul 9.	Involvement of Heregulin/HER3 in the Primary Culture of Human Urothelial Cancer.	Nakayama M	泌尿器科
World J Urol.2012 Oct;30(5):701-6.	The result of adjuvant chemotherapy for localized pT3 upper urinary tract carcinoma in a multi-institutional study.	Nakayama M	泌尿器科
Int Urol Nephrol. 2012 Apr;44(2):479-85.	Usefulness of postoperative nadir prostate-specific antigen value by ultrasensitive assay as a predictor of prostate-specific antigen relapse for pathological T3 or positive surgical margins after radical prostatectomy for prostate cancer.	Takeda K	泌尿器科
Int J Clin Oncol. 2012 Jun 12.	Weekly low-dose docetaxel combined with estramustine and dexamethasone for Japanese patients with metastatic castration-resistant prostate cancer.	Nishimura K	泌尿器科
Int J Clin Oncol.2013 Mar 1.	Weekly low-dose docetaxel combined with estramustine for Japanese castration-resistant prostate cancer; its efficacy and safety profile compared with tri-weekly standard-dose treatment.	Nishimura K	泌尿器科
Surg Today. 43(809-13) 2013	A case of isolated lateral lymph node recurrence occurring after TME for T1 lower rectal cancer treated with lateral lymph node dissection: report of a case.	Sueda T	消化器外科
Case Rep Gastroenterol. 6(375-80) 2012	A Case of KIT-Negative Extra-Gastrointestinal Stromal Tumor of the Lesser Omentum.	Ogawa H	消化器外科
Acta Radiol. 53 (303-6), 2012	Carcinoma ex pleomorphic adenoma of the parotid gland.	Tomita Y	病理・細胞診断科
Helicobacter 17(224-31), 2012	Comprehensive Investigation of Areae Gastricae Pattern in Gastric Corpus using Magnifying Narrow Band Imaging Endoscopy in Patients with Chronic Atrophic Fundic Gastritis	Tomita Y	病理・細胞診断科
Acad Radiol. 20 (740-5) 2013	Diagnosis of Regional Node Metastases in Lung Cancer with Computer-Aided 3D Measurement of the Volume and CT-Attenuation Values of Lymph Nodes.	Tomita Y	病理・細胞診断科
Hepatogastroenterology 2012;59(118)1665-9	Diagnostic clues and subsequent examinations that detected 2 cm or smaller pancreatic ductal adenocarcinoma	Kawada N	病理・細胞診断科
Pancreas 2012;41(6):978- 80.	Feasibility of second-generation transabdominal ultrasound-elastography to evaluate solid pancreatic tumors: preliminary report of 36 cases	Kawada N	病理・細胞診断科
J Hepatobiliary Pancreat Sci 2012;19(6):717-22.	Human equilibrative nucleoside transporter 1 level does not predict prognosis in pancreatic cancer patients treated with neoadjuvant chemoradiation including gemcitabine	Kawada N	病理・細胞診断科
Case Rep Gastroenterol 2013;7:30-36.	Microinvasion of high grade pancreatic intraepithelial neoplasia	Kawada N	病理・細胞診断科
Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol 164(2)200-4: 2012	Cervical non-squamous carcinoma: an effective combination chemotherapy of taxane, anthracycline and platinum for advanced or recurrent cases	Miyatake T	婦人科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Gynecol Cancer 22(8)1389-97: 2012	Comparison of the prognoses of FIGO stage I to stage II adenosquamous carcinoma and adenocarcinoma of the uterine cervix treated with radical hysterectomy	Okazawa M	婦人科
Gynecol Oncol 127(1)114-20: 2012	Impact of histological subtype on survival of patients with surgically-treated stage IA2-IIIB cervical cancer:adenocarcinoma versus squamous cell carcinoma	Okazawa M	婦人科
Int J Gynecol Cancer 23(3)567-75: 2013	Impact of the Addition of Concurrent Chemotherapy to Pelvic Radiotherapy Treated Stage IB1-IIIB Cervical Cancer Patients With intermediate-Risk or High-Risk Factors: A 13-Year Experience	Okazawa M	婦人科
Arch Gynecol Obstet 285(5)1447-1453: 2012	Investigating the relative efficacies of combination chemotherapy of paclitaxel/carboplatin, with or without anthracycline, for endometrial carcinoma	Miyatake T	婦人科
International Journal of Radiation Oncology.Biol. Phys. 84(3), S818-819, 2012	Calculation of Crarial and Candal Margins to compensate tumor motion change in LungSBRTusing EPID cine.	Nishiyama K	放射線治療科
International Journal of Radiation Oncology.Biol. Phys. 83(3); 1064-1069, 2012	Cranicaudal safety margin calculation based on interfractional changes in tumor motion in lung SBRT assessed with an EPID in cine mode.	Nishiyama K	放射線治療科
Jpn J Clin Oncol 2012 doi:10.1093/jjco/hys167	Influence of rotational setup error on tumor shift in bony anatomy matching measured with pulmonary point registration in stereotactic body radiotherapy for early lung cancer	Nishiyama K	放射線治療科
International Journal of Radiation Oncology.Biol. Phys. 84(3), S718, 2012	Maximum intensity projection and average intensity projection in image guided stereotactic body radiotherapy for lung cancer	Nishiyama K	放射線治療科
Diabetes Technology and Therapeutics, 14(6), 485-91, 2012	A Minimally Invasive System for Glucose Area Under the Curve Measurement Using Interstitial Fluid Extraction Technology: Evaluation of the Accuracy and Usefulness with Oral Glucose Tolerance Tests in Subjects With and Without Diabetes	Nakajima H	臨床検査科
Lancet Oncol. 2012 Oct;13(10):993-1001	TAS-102 monotherapy for pretreated metastatic colorectal cancer: a double-blind, randomised, placebo-controlled phase 2 trial.	Sugimoto N	臨床腫瘍科
Surg Today. 43(685-9) 2013	Recurrence of hepatocellular carcinoma presenting as an asymptomatic appendiceal tumor: report of a case.	Tomita Y	病理・細胞診断科
Oncocytol. 3 (1-7), 2013	Scoring system of fine needle aspiration cytology samples for the detection of non-high-grade ductal breast carcinoma	Takenaka A	病理・細胞診断科
Ann Vasc Surg 26 (693-9) 2012	Surgery with vascular reconstruction for soft-tissue sarcomas in the inguinal region: oncologic and functional outcomes.	Tomita Y	病理・細胞診断科
Chemotherapy. 58(6):454-460. 2013.	A Retrospective Study of the Novel Combination of Paclitaxel and S1 for Pretreated Advanced Non-Small Cell Lung Cancer.	Ito Y.	がん予防情報センター
Asian Pac J Cancer Prev; 13(8):3893-8,2012	Cancer incidence and mortality in Osaka, Japan: future trends estimation with an age-period-cohort model.	Tsukuma H	がん予防情報センター
Gastric Cancer 16; 1-27, 2013	Gastric cancer treated in 2002 in Japan: 2009 annual report of the JGCA nationwide registry	Nashimoto A	がん予防情報センター
Cancer Sci 103; 1111-1120, 2012	Incidence of metachronous second primary cancers in Osaka, Japan : Update of analyses using population-based cancer registry data	Tabuchi T	がん予防情報センター
Ann Surg Oncol 20; 542-546, 2013	Intraoperative Diagnosis Using Sentinel Node Biopsy with Indocyanine Green Dye in Gastric Cancer Surgery: An Institutional Trial by Experienced Surgeons.	Miyashiro I	がん予防情報センター
Cancer Epidemiology 36; 128-132, 2012	Role of age and tumour stage in the temporal pattern of 'cure' from stomach cancer: A population-based study in Osaka, Japan	Ito Y.	がん予防情報センター

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Jpn J Clin Oncol 42; 974-983, 2012	Trends in 'cure' fraction from colorectal cancer by age and tumour stage between 1975 and 2000, using population-based data, Osaka, Japan.	Ito Y.	がん予防情報センター
J Gastric Cancer 12; 7-12, 2012	What is the problem in clinical application of sentinel node concept to gastric cancer surgery?	Miyashiro I	がん予防情報センター
実験医学. 30(17): 2793-2798, 2012	がん細胞の低酸素応答	井上正宏	生化学部門
Surgery Frontier. 19(3): 316-318, 2012	癌の低酸素応答	奥山裕照	生化学部門
日本消化器病学会雑誌. 109(12): 2007-2013, 2012	大腸癌の発生から転移まで 最近の話題	井上正宏	生化学部門
内分泌・糖尿病・代謝内科. 35(3): 264-269, 2012	低酸素と糖尿病, 癌	井上正宏	生化学部門
THE LUNG-perspectives. 20(1): 69-74, 2012	低酸素環境における遺伝子制御	奥山裕照	生化学部門
肝胆膵2012.64(5):711-716.2012.5	肝胆膵悪性腫瘍に対する分子標的療法の近未来的展望『Erlotinib』	井岡達也	検診部
日本消化器病学会雑誌, vol.109no.11, 1895-1901, 2012,	肝内胆管癌に対する化学療法の進歩	井岡達也	検診部
新臨床腫瘍学(改訂第3版), 423-428, 2012,	膵がん	井岡達也	検診部
肝胆膵2013, vol.66no.1, 65-73, 2013.1,	膵腫瘍に対するEUSガイド下治療の新たな試み	蘆田玲子	検診部
日本呼吸器外科学会雑誌. 26(6); 620-624, 2012	I 期肺腺癌に対する重粒子線治療後局所再発症例にサルベージ手術を施行した1例	徳永俊照	呼吸器外科
地域連携入退院支援, 6(1), 98-104, 2013,	都道府県統一型がん地域連携バスの活用で図る地域連携: 大阪府の場合	東山聖彦	呼吸器外科
日本外科学会雑誌, 113(6), 519-524, 2012,	肺がんを疑う末梢孤立性病変への対応開胸生検の利点	東山聖彦	呼吸器外科
Surgery Frontier. 19(2); 55-63. 2012	播種治療の展望 6. 胸膜播種に対する術後胸腔内温熱化学療法	兒玉憲	呼吸器外科
Progress in Medicine 32(8), 1759-66, 2012	呼吸器外科術後合併症のマネージメント 間質性肺炎併発症例のマネージメント	岡見次郎	呼吸器外科
日本消化器外科学会誌 45(4), 466-73, 2012	切除可能であった肺多形癌の孤立性大網転移の1例	東山聖彦	呼吸器外科
Angiology rontier, vol.11no.3, 205-211, 2012.9,	肺癌とEGFR-TK1	熊谷融	呼吸器内科
JOHNS, 29(4), 735-738, 2013,	口腔癌に対する手術	鈴木基之	耳鼻咽喉科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
頭頸部外科 vol.22no.3,303-310,2012,	喉頭摘出後の音声リハビリ・代用音声・食生活について—アンケート調査—	吉野邦俊	耳鼻咽喉科
JOHNS・Vol.28・No.4・ p.669-673,2012年4月	手術適応と術前検査 喉頭癌	吉野邦俊	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科 頭頸部外科研 修ノート. 397-401. 診断と治 療社. 2011年	第6章15. 喉頭癌に対する手術(分担執筆)	藤井隆	耳鼻咽喉科
ENT臨床フロンティアがんを 見逃さない-頭頸部癌診療 の最前線,中山書店(東 京),246-253,2013,中山書店 (東京)	第8章 頭頸部癌をめぐるトピック 行政からみた癌対策(分担 執筆)	吉野邦俊	耳鼻咽喉科
頭頸部外科, vol.22no.3,287-292,2012.1,	軟口蓋全摘出術後の鼻咽腔機能を考慮した再建方法	藤井隆	耳鼻咽喉科
JOHNS・ Vol.28・ No.8・ p.1207-1212,2012年 東京 医学社	扁平上皮癌亜型の臨床的特徴とその取り扱い方～類基在細胞 癌～	鈴木基之	耳鼻咽喉科
頭頸部癌,vol.38no.4,385- 389,2012,	遊離皮弁にて再建した喉頭温存下咽頭部分切除術の検 討—特に長期的結果について—	栗田智之	耳鼻咽喉科
日耳鼻, 115(10):902-909, 2012.	高用量シスプラチンを用いた化学放射線同時併用療法にお ける栄養状態の変化に関する検討～特に放射線単独療法と の違いについて～	吉野邦俊	耳鼻咽喉科
Osaka Heart Club 35: 3-4, 2012..	がんと循環器	向井幹夫	循環器内科
成人病と生活習慣病 42: 351-355, 2012.	がんにおける利尿薬の使い方	向井幹夫	循環器内科
心エコー 14: 246-252, 2013.	抗がん剤・放射線治療と心疾患	塩山 渉	循環器内科
Osaka Heart Club 36:6- 10, 2012.	胸骨原発悪性腫瘍に合併した虚血性心疾患の一例	刀禰央朗	循環器内科
内科 第111巻 437-444 2013年	〈画像強調観察の進歩と活用法〉色素内視鏡観察	竹内洋司	消化管内科
消化器内視鏡ハンドブック 87-96	画像強調観察の基本と原理	上堂文也	消化管内科
医学図書出版株式会社	これで合格！消化器内視鏡技師試験対策—その他の内視 鏡検査(超音波・色素・NBI/FICE・拡大)	上堂文也	消化管内科
臨床腫瘍プラクティス 8巻・2号・120-127・ 2012.5.10	術前補助化学療法をめぐる 2)食道がんに対する術前補助化学(放射線)療法の実際 (2)具体的なレジメンと施行の実際	山本 幸子	消化管内科
消化器内視鏡 25巻5号 671-678. 2013	消化管狭窄への挑戦	鼻岡昇	消化管内科
今日の治療指針(私はこう治 療している),2013.1.1.,2013,	消化管疾患-内視鏡的切除術	竹内洋司	消化管内科
臨床雑誌 内科 ,Vol.111 No.1 January, 2013	食道がん(扁平上皮がん)	伊藤貴史	消化管内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
消化器内視鏡ハンドブック	食道癌のEMR/ESD	石原立	消化管内科
消化器の臨床、503-508: 15(5); 2012.	スムーズに挿入するコツと観察のポイント	石原立	消化管内科
胃と腸、1419-1426: 47(9); 2012	まだら食道を背景とした食道癌の初期浸潤所見	石原立	消化管内科
胃と腸2012年07月号 (Vol.47 No.8)	胃ポリープの分類と鑑別— NBI拡大観察での特徴	山階武	消化管内科
消化器内視鏡リファレンス ブック. 458-461: 24(4); 2012.	咽頭・食道癌のリスクファクター	石原立	消化管内科
マルチソサエティガイドライ ン.	消化器内視鏡の洗浄・消毒	石原立	消化管内科
消化器疾患最新の治療(南 江堂). 109-112	早期癌の内視鏡治療(食道癌)	石原立	消化管内科
Helicobacter Research 16(2): 94 -101 2012	腸上皮化生の内視鏡診断	上堂文也	消化管内科
消化器内視鏡 24;9:1384- 1385	内視鏡所見の書き方---完璧な記載は「有用な記録」となる	上堂文也	消化管内科
胃と腸、347-354: 48(3); 2013	隆起型食道扁平上皮癌の深達度診断—超音波内視鏡を中心 に	石原立	消化管内科
消化器外科 開腹術・内視 鏡手術 完全マニュアル. 36: 196-212.2012	1. 開腹術②臍頭十二指腸切除術	大東弘明	消化器外科
疾患別に診る嚥下障 害,336-345,2012.8,医歯薬 出版(株)	5章 頭頸部腫瘍—特に悪性腫瘍・器質的疾患とその術後— 5-6食道癌	矢野雅彦	消化器外科
成人病,no.52,41-43,2012,	新しい胃がん腹膜転移診断法の開発～目に見えないがんを 光らせ見つける～	岸健太郎	消化器外科
がんペプチドワクチン療 法,45-52,2012.9.10,出版 社:市民のためのがんペプ チドワクチンの会	胃がんに対するペプチドワクチン治療	藤原義之	消化器外科
Nutrition Support Journal ,vol.3,2,2012,	結腸穿孔を伴う腹腔内膿瘍・難治性瘦孔	後藤邦仁	消化器外科
消化器内科,55(3),376- 381,2012,	切除不能肝門部胆管癌に対する化学放射線療法の有用性	後藤邦仁	消化器外科
消化器外科,36(4),423- 430,2013,	大腸癌手術—下部進行直腸癌における術中側方センチネルリン パ節生検と側方郭清—	大植雅之	消化器外科
消化器外科 NURSING,17(11),30- 37,2012,	大腸手術後のドレーン管理	能浦真吾	消化器外科
今日の移植,25(3),196- 200,2012,	タクロリスク徐放性製剤の肝移植後de novo投与と安定期切り 替え投与の経験	丸橋繁	消化器外科

小計  
19

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Jpn J Cancer Chemother, vol.39no.12,2012,	直腸癌孤立性大動脈分岐部リンパ節再発に対して血管合併 切除再建術を施行し長期生存が得られた1例	能浦真吾	消化器外科
レジデントのための消化器外 科診療マニュアル,2012.10.1,(株) 医学書院	腹腔鏡下胆嚢摘出術	後藤邦仁	消化器外科
臨床整形外科・48.683- 687.2013	誌上シンポジウム 転移性骨腫瘍-治療の進歩 転移性骨腫瘍の緩和医療	城山晋	脳神経外科
脳神経外科速報 vol23 no.3 316-323, 2013	テモゾロミドと日和見感染-ニューモシスチス肺炎とサイトメガ ロウイルス・B型肝炎ウイルスの活性化について-	沖田典子	脳神経外科
脳神経外科ジャーナル, in press.	神経膠腫患者の認知機能・QOL研究の現状と課題.	沖田典子	脳神経外科
整形外科63:370-378,2012	専門医試験を目指す症例問題トレーニング;骨軟部腫瘍	荒木信人	整形外科
泌尿器科紀要.58:727- 730,2012	性腺外胚細胞腫瘍の診断と治療	垣本健一	泌尿器科
泌尿器ケア.17(8):40- 45,2012	患者さんへの説明に使える!泌尿器科手術の知識とポイント II腎・副腎 6. 患者さんに説明できる 開放腎尿管全摘除術 の知識とポイント	西村和郎	泌尿器科
泌尿器外科.26(3):305- 306,2013.3	筋層非浸潤性膀胱癌に対するBCG膀胱内注入療法の EORTCリスク分類別再発予防効果:単一施設による後方視 的検討	中山雅志	泌尿器科
臨床泌尿器科.66(9):659- 662,2012	手術手技●指導的助手からみた泌尿器科手術のポイント⑫ 後腹膜リンパ節廓清術	西村和郎	泌尿器科
泌尿器科紀要.59:113- 116,2013	術後26年目に発症した乳癌腎周囲脂肪織転移の1例	山本致之	泌尿器科
泌尿器科紀要.58:491- 494,2012	腎癌心膜転移による心タンポナーデをきたした1例	新井康之	泌尿器科
臨床泌尿器科.66(6):417- 424,2012	特集 Energy devicesの選択と使い方 自動縫合器の選択と 使い方	武田 健	泌尿器科
臨床泌尿器科.66(4)増 刊:265-270,2012	泌尿器科ベッドサイトマニュアル IVベッドサイド検査の実際 ■5.生検 047 前立腺生検	西村和郎	泌尿器科
泌尿器科紀要.58:635- 637,2012	分子標的治療の副作用対策 Sorafenibの副作用とその対策	中山雅志	泌尿器科
胃と腸(0536-2180)47巻9号 Page1419-1426(2012.08)	【食道癌の発育進展-初期浸潤の病態と診断】まだら食道を 背景とした食道癌の初期浸潤所見	長井健悟	消化管内科
JOHNS(0910-6820)28巻8号 Page1207-1212(2012.08)	【頭頸部扁平上皮癌の最新情報】扁平上皮癌亜型の臨床的 特徴とその取り扱い方 類基底細胞癌	鈴木基之	耳鼻咽喉科
日本医事新報(0385- 9215)4616号 Page65- 70(2012.10)	PET/CTによる悪性腫瘍の画像診断 悪性リンパ腫の PET/CT画像	富田裕彦	病理・細胞診断 科
日本消化器外科学会雑誌 45 (466-73) 2012	切除可能であった肺多形癌の孤立性大網転移の一例	今田慎也	消化器外科

小計  
19

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本消化器外科学会雑誌 (0386-9768)45巻5号 Page559-565(2012.05)	横隔膜原発paragangliomaの1例	橘高 弘忠	消化器外科
日本消化器外科学会雑誌 (0386-9768)45巻4号 Page466-473(2012.04)	切除可能であった肺多形癌の孤立性大網転移の1例	今田 慎也	消化器外科
日本CT検診学会誌. 19(2); 51-55. 2012.8.31	AIDR(Adaptive Iterative Dose Reduction)を用いた胸部CT 検診における低線量化についての検討	上加世田寛	放射線診断科
Rad Fan. 10(10);75-78. 2012	Read-out segmented echo planar imaging(RESOLVE)を用い た新しい拡散強調画像の有用性	立石宗一郎	放射線診断科
INNERVISION.27(9);55- 58. 2012	機能を生かす脂肪抑制法(脊椎・脊髄)	宮崎将平	放射線診断科
Rad Fan,11(3),90- 93,2013.2,	上手に可搬媒体を活用するためのコツ	川眞田実	放射線診断科
日本放射線技術学会.放射 線防護分科会・No.34・ p.68-68,2012.4.12	面積線量計を用いた面積線量が増加する要因の検討	國下皓平	放射線診断科
糖尿病ケア. 9(8): 740-743, 2012	【病態・ケアの理由・方法がみえる 納得!糖尿病と内臓脂肪 の関係】“メタボ型の糖尿病”で何が起るの? インスリン抵 抗性が出現・増強する.	山崎知行	臨床検査科
新領域別症候群シリーズ No.19 先天代謝異常症候群 (第2版)上. pp. 63-66, 日本 臨牀社. 2012	筋グリコーゲン病VII型(垂井病)	山崎知行	臨床検査科
新領域別症候群シリーズ No.19 先天代謝異常症候群 (第2版)上. pp. 54-59, 日本 臨牀社. 2012	筋グリコーゲン病V型(McArdle病)	山崎知行	臨床検査科
医用画像情報学会誌 29(2):35-38, 2012	画像診断の進歩とその評価ー低線量CT検診の場合	中山富雄	がん予防情報セ ンター
成人病. 52:21-2. 2012	がん患者の治癒率とは? ~がんの予後を示す新しい指標~.	伊藤ゆり	がん予防情報セ ンター
INNERVISION 27(7):2-5, 2012	肺癌CT検診を巡る国内外の動向と現状	中山富雄	がん予防情報セ ンター
日本がん検診診断学会誌 19(3): 266-269, 2012	利益と不利益を考慮した肺癌検診のあり方	中山富雄	がん予防情報セ ンター
公衆衛生. 76(10):827-32. 2012.	子宮頸がん検診の無料クーポン配布および未受診者への 受診再勧奨の効果:コール・リコール制度の試み	伊藤ゆり	がん予防情報セ ンター
Medical Practive 29(6):927- 931,2012	実地医家がいかに肺癌を疑い、いかに早期発見するか?ー 肺癌早期発見のあり方と進め方	中山富雄	がん予防情報セ ンター
JOHNS, 28巻8号, 1141- 1145, 2012	頭頸部扁平上皮癌は増えているかー大阪府がん登録資料に 基づいた観察ー	井岡亜希子	がん予防情報セ ンター

小計  
17  
合計  
282

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること。(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 左近賢人
管理担当者氏名	総務人事マネジャー 北邨健司、経営企画マネジャー 井上好文、薬局長 福島宜久、医療情報主任部長 松永隆、放射線診断科主任部長 中西克之

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医療情報部、中央手術室、看護部、放射線診断科、各診療科、病歴管理室	カルテ等病歴資料は、外来・入院別に患者一カルテ方式とし、一つのID番号により病歴管理室で集中管理を行っている。 エックス線写真は、放射線診断科で集中保管している。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務人事G	人事管理システムで保管	
	高度の医療の実績	医療情報部	コンピュータ管理他	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務人事G	年度毎にファイルに綴じて保管	
	高度の医療の研修の実績	総務人事G	年度毎にファイルに綴じて保管	
	閲覧実績	医事G	年度毎にファイルに綴じて保管	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事G	地域連携情報をファイルに綴じて保管	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営企画G 薬局	診療情報をファイルに綴じて保管 調剤情報をファイルに綴じて保管	
	項規第一号に掲げる第一項各号の及び第九条の二十三第一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部門	ファイルに綴じて保管
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部門	年度毎にファイルに綴じて保管
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部門	年度毎にファイルに綴じて保管
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		医療安全管理部門	年度毎にファイルに綴じて保管	
専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況		医療安全管理部門		
専任の院内感染対策を行う者の配置状況		感染対策室		
医療に係る安全管理を行う部門の設置状況		医療安全管理部門		
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者総合相談室			

(様式第12)

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策部門 ファイルに綴じて保管
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策部門 年度毎にファイルに綴じて保管
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策部門 年度毎にファイルに綴じて保管
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策部門
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬局及び全部門
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬局 年度毎にファイルに綴じて保管
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬局 年度毎にファイルに綴じて保管
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬局 年度毎にファイルに綴じて保管
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	副院長室
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	C E 室 年度毎にファイルに綴じて保管
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	C E 室 年度毎にファイルに綴じて保管
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	C E 室 年度毎にファイルに綴じて保管

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び  
紹介患者に対する医療提供の実績

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 左近 賢人
閲覧担当者氏名	医療情報部主任部長 松永 隆、医事主査 本城孝一郎
閲覧の求めに応じる場所	(窓口) 医事グループ (閲覧場所) 医療情報部

○ 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 件
	歯科医師	延 件
	国	延 件
	地方公共団体	延 件

○ 紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	95.3 %	算定期間	平成24年4月1日 ~ 平成25年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	6,567人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	13,741人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	0人	
	D: 初診の患者の数	7,564人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項各号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>指針の主な内容： 医療安全管理体制、医療安全研修に関する基本方針、インシデント報告、医療事故発生時の対応、医療従事者と患者の情報共有、患者からの相談への対応、医療安全管理マニュアルの作成・更新、医療安全管理に関する指針の公開</li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の主な内容： 医療事故調査委員会・医療事故対策本部・医療支援チームの設置、医療事故・インシデント等が発生した場合の情報収集及び患者等への対応、重大な医療事故発生時の速やかな発生原因の分析・再発防止策の立案、医療安全管理マニュアルの作成・更新、医療安全に関する職員の教育及び研修の企画・運営・評価、指導の徹底と事故発生時の監視、医薬品に係る安全管理、医療機器の保守点検・安全使用、病院機構本部・警察署・保健所・近畿厚生局・日本医療機能評価機構への報告など</li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 40 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容： 全職員対象第1回研修「アニメで学ぶ医療安全 声明を分けるコミュニケーション技術」、第2回研修「医療事故対応弁護士の立場から医療者が注意すべき説明と義務」、5センター合同「医療コンフリクト・マネジメント研修導入～基礎編連続版」、「BLS研修」、「人工呼吸器・心電図モニター取扱い研修」、「MRI検査に置いて医療スタッフが気を付けること」、「抗糖尿病薬の最新の報告と注意事項」</li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)</li> <li>その他の改善のための方策の主な内容： バックバルブマスクの点検体制の整備、転倒転落予防離床センサー(コードレスマット)の整備、医療安全管理マニュアルの改訂、医療安全情報の作成・配信、院内掲示板内容更新、ホームページ仕様変更に伴う更新など</li> </ul>
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 ( 1 名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 1 名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>所属職員： 専任( 1 )名 兼任( 9 )名 非常勤( 2 )名</li> <li>活動の主な内容： インシデント報告書の分析、再発防止策の策定及び部署での確認周知、医療安全管理委員会事務局、医療審議委員会事務局、担当医療安全管理者会議の運営、医療安全研修の企画実施、医療事故発生時の現場対応及び指導、医療安全にかかる連絡調整など</li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に対応される体制の確保状況	有 ・ 無

## 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>指針の主な内容： 院内感染防止に係る基本的な考え方、委員会等組織に関する基本的事項、職員研修に関する基本方針、院内感染報告制度、院内感染発生時の対応、指針の公開</li> </ul>	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の主な内容： 細菌分離状況および耐性菌発生状況の把握、サーベイランスデータ報告（手術部位感染、血管内留置血流感染、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、多剤耐性緑膿菌、基質特異性拡張型βラクタマーゼ産生菌のなどの多剤耐性菌検出状況）重症感染症発生状況の把握、抗MRSA・カルバペネム系抗生剤使用状況の把握、アウトブレイク発生時の指揮指導および改善策の実施状況についての調査と見直し</li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 37 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の主な内容： 標準予防策、適切な防護具の着脱の演習、手洗い演習、安全機能付き翼状針・留置針の取り扱いの演習、感染経路別予防策、院内感染防止対策マニュアルの読み合わせ、インフルエンザについて、病院清掃について、感染予防について、肺結核について</li> </ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)</li> <li>その他の改善のための方策の主な内容： 所属ごとに担当院内感染防止対策推進者（リンクドクター、リンクナース）を任命し、情報伝達および現場からの報告があがるようにしている。</li> </ul>	

## 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： 抗糖尿病薬の最新情報と注意点、肺結核について、耐性菌出現への対策について、TPN輸液の適正な取り扱いについて、抗がん剤の被爆防止について、結核の診断と治療について、抗造血器悪性腫瘍剤の適切な管理、抗糖尿病薬の適切な管理と低血糖対策</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (○有 ・ 無)</li> <li>・ 業務の主な内容： 医薬品の採用・購入、調剤室・外来及び入院部門における医薬品の管理、患者への医薬品の使用、臨床検査・画像診断部門における医薬品の使用、他施設との連携、事故発生時の対応、教育・研修</li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○有 ・ 無)</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品安全管理責任者は、医療安全部門と連携し、すべてのインシデント報告を受ける。それら報告のうち医薬品安全使用に関わるインシデントについて、医薬品安全管理委員会や医療安全担当者会議などで改善策を検討・提案・実施している。</li> </ul>	

### 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 24 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容： A E D及び除細動器、人工呼吸器、血液浄化装置など生命維持管理装置や基本的な医療機器である輸液、シリンジポンプ等の使用・点検方法、放射線及び放射線機器の基礎知識、等</li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>計画の作成 (○有 ・ 無 )</li><li>保守点検の主な内容： 人工心肺装置・補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置その他の医療機器について実施した。</li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医療機器に係る情報の収集の整備 (○有 ・ 無 )</li><li>その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品医療機器総合機構から出される「医薬品医療機器等安全性情報」から情報を得ている。不具合のあった医療機器は厚生労働省に報告した。</li></ul>	